



強い心で最後までやりきることに

教室に掲げた「センターまで〇〇日」の数が日々少なくなるにつれ、不安、緊張感、強い意志のもと机に向かう姿、様々なものが交錯し、受験生独特の空気がホール棟を包んできています。これまで3年間頑張ってきたことを土台に、ここから直前まで、現役生は特に伸びが期待できます。センター試験得点率も、前日まで演習を重ね本番で自己最高の結果を収めた先輩が多くいます。諦めない心、合格に執着する強い意志、ただただ精一杯の努力を続けること、これだけをもって残り数十日を走り抜けましょう。努力の分だけ結果はついてきます。今まだ努力ができることを幸せに思い、無心に淡々と机に向かい続けましょう。努力の結果としての合格を勝ち取ること、これが何よりの目標であることは言うまでもありませんが、受験を通じてこれまでの自分の殻を破り、弱さに打ち勝ち、日々強く逞しくなってゆく皆さんを応援しています。

入試まで



いよいよセンター試験まで3週間あまりとなりました。泣いても笑っても、試験の日は確実にやってきます。「気合いだ〜!!」と乗り切りたいところですが、それは試験の始まる直前でいいことであり、あと3週間、あるいは私大、二次まで50日と考えるなら、「気合い」よりは「準備」の方が、何倍も大切です。

「気合い」などという言葉の前に、まず、やるべきことがあるはずですよ。模試の成績を振り返ってみて、苦手な科目、苦手な分野の対策を立てること。それをせずして、「気合いでなんとかする」と言ってみたとところで、どうにもなりません。

単語なのか、文法なのか、長文なのか、はたまた時間配分なのか？理由と原因を特定しながら、対策を立てることが、今、もっとも優先すべきことです。「たぶんなんかなる」「たまたま悪かった」などという言葉で逃げないこと。「たまたま」であったとしても、原因を放っておけば、その「たまたま」は試験当日にもう一度やってくるかもしれません。

やるべきこと①

模試を振り返り、ふるわなかった科目、分野を洗い出し、原因を特定し、復習や対策を行う

生活の注意

授業がなくなれば、たっぷり時間を使うことができます。あと3週間と言っても、時間はたっぷりあるといえるかもしれません。

しかし、本番が近くなってくると、いくつか気をつけなければいけないことがあります。第一に起床時間を一定に保ち、9時には学習を始めること。特に午前中のうちに、長時間の、本番に近い演習を入れること、です。

よく、「朝型にする」と言われますが、勉強は一日行うわけですから、その意味では「朝型」も「夜型」もあります。また、記憶型のもの、単語や文法の復習は、記憶を定着する意味でも、夜の方が向きますし、その復習が次の日の演習で生きるかどうかを確認するという流れも生まれます。逆に、9:00から過去問題などを解く形を作らない

と、食事と脳の働きのシミュレーションができません。

脳の栄養は、ブドウ糖です。炭水化物をはじめショ糖など、ブドウ糖につながるものだけが脳のエネルギーとなります。普通に生活していても、朝ごはんを食べた後、11時には間違いなく、脳はエネルギー不足となり、集中力を欠くようになります。試験のように、脳の働きが最大になれば、もっとエネルギー不足は早くやってくるはずですが。

こうして考えてみると、特に午前中に過去問題などの試験時間のシミュレーションと間食のタイミングを作る練習をする必要がありそうです。

ソフトドリンクなどの糖分が多すぎるものは、逆に血糖値を下げるようにインスリンの分泌が促進され、低血糖を引き起こし、イライラなど集中力の欠如につながりますから、「適度」を探すためにも、朝ごはん→試験→間食（端的に言えば、ブドウ糖そのもの）→試験→昼食、という流れを毎日つくっておきましょう。

やるべきこと②

学校に行く時間に起き、朝ごはんを食べ、9:00には試験を開始する。間食のタイミングを作りながらシミュレーションをする。

メンタル

試験が近づいてくれば、こうした「準備」は、完了しています。準備ができていなくても、もう準備することはできない以上、準備は完了したとみなすしかありません。

まさに「気合い」となるわけですが、誰でも「気合い」は持っているわけで、こうした時にはどのようなことを注意すればいいのでしょうか？

第一に、やってきたことを見る、ということです。コップに入った水を見たとするなら、入っている水を見るということです。裏を返せば、入っていない空白は気にしない、ということです。つまり、試験が直前に迫れば、できることは「今までやってきたことの確認」「今までできたことを100%成功させること」です。練習でできなかったことを本番でやっとうまくいくわけがありません。今まで何度も覚えようとして理解できなかったことが、試験前の10分で身につくわけがありません。（身につく、と思うなら、今から3週間必死にやればいだけの話です。）できていないものを見て不安になるのではなく、今までやってきたことを、「これもわかる」「これも大丈夫」と復習することが試験の時に必要なことです。

その意味ではもっとも適切なものは、自分が作り込んだノートや、ずっと使ってきた参考書でしょう。それも自信のあるところを復習することがいいでしょう。

第二に、ネガティブな言葉、否定語を発しないことです。最初の、言霊の話ではありませんが、「できない」というイメージは、人間の体を無意識にしばります。「不安な言葉」は、発せられた瞬間、「不安な気持ち」に変わり、「不安な行動」へとつながるのです。

つまり、「気持ちが、言葉や行動を作る」のではなく、「言葉や行動が気持ちを作る」のです。いくら人になぐさめがほしいからといって「大丈夫かなあ」と発すれば、「大丈夫でない行動」が生まれます。「大丈夫」という言葉が「大丈夫な行動」を生むのです。保護者の方も「大丈夫？平気なの？」と聞くのではなく、「大丈夫」と言い切ることが、生徒の自信につながるはずですが。試験に向けて必要なのは「やっていないところが大丈夫か心配すること（大丈夫なわけがなく、だめに決まっています。）」でなく、「やったところを100%出し切ること」しかないのですから。

やるべきこと③

自分のやってきたことをしっかり復習し、100%出し切ることを目標にする

失敗したときの言い訳を考えるより、成功するための事実を積み上げること。自分の言動を一番近くで見聞しているのは、自分自身です。



併願作戦のために

合格を必ずとる！

現役で行くことを希望する人も、ある一定のところでなければ浪人を辞さない覚悟でいる人も、必ず合格をとるようになりましょう。現役で進学する人は当然ですが、浪人をする可能性があったとしても、合格をとることは、現役第一志望校へのはずみをつける意味でも、浪人した時の心の支えを作る意味でも、非常に重要です。

第一志望校へのはずみ、という意味でも、ふたつの大きな効用があります。第一に、第一志望校のためのシミュレーションが必要であること。朝、受験会場に向かい、緊張感の中、試験を受けるというシミュレーションは、慣れる、という意味だけでも、非常に重要です。第二に、合格はうれしいし、不合格は落ち込む、という当たり前のことです。たとえば、文系の上智は比較的早い日程にあります。上智大の発表は早稲田の前にされてしまうわけですが、その間に行われるMARCHの合格発表はまだ行われていません。早稲田を受験する心理として、「MARCHは大丈夫だろう」といかに言い聞かせても、「もしかしたら」と考えるのが受験生の心理です。それが前述のネガティブワードを生み出す土壌になります。したがって、たとえ行く気がなかったとしても、同時期の合格をとるだけで、「自分は惜しいところだった」というポジティブな心理に変わるのであります。序盤に難関大がある人は特に、早めの合格確保がおすすめです。

50%の確率論

では、合格確率をどのくらいで見ていけばいいのでしょうか。「下手な鉄砲数うちや当たる」と言いますが、いくら数を撃つても狙わなければ当たりません。地面に向けて撃つて当たるわけがないのです。とすれば、ある程度合格確率があるとして、どのくらい撃てばよいか、ということが問題になります。

まず、合格確率が非常に低いケースを考えてみましょう。合格確率が20%という判定があったときに、5校受ければ1校受かるでしょうか。残念ながら受かりません。受かるとすれば、次の2パターンです。ひとつは、「5回に1回の確率でたまたま失敗した人」です。本来、20%でないのですから、可能性がります。もうひとつは、本番には「勉強を重ねて成績をあげた人」です。この人は本番に関しては、「20%でない」のですから、可能性がります。つまり、合格するためには、あと50日で必死にやって成績をあげることであり、併願作戦などではないのが、この判定帯の人です。

次に、合格確率が50%程度の人を考えてみましょう。合格確率が50%の場合、1校受けるより、2校受けた方が、どちらかに受かる確率は上がりそうです。2校ともおちる確率は1/4、25%です。これを3校に増やしたとするなら、全てに落ちる確率は1/8、12.5%となります。1/4でもだいぶ高い印象ですが、1/8となると、90%の確率で受かるわけですから、3校ぐらいいは受けたい感じですね。

しかし、4校に増やすのはどうでしょうか？確率論でいえば、さらに確立があがり、1/16、95%に近づきます。しかし、3校落ちる確率が10%であったとするなら、3校すべて落ちる人は、実力が足らない確率が高そうです。その人がいくら校数を増やしても、合格はとれるようには思えません。とするなら、チャレンジから標準の同レベル帯の受験校数は、「2校では少なく」「3校程度で」「5校以上は無意味」ということになるのではないのでしょうか。

安全校については、現役志向が強いのか、そうでないかで、校数は変わると思います。いくらA判定でも、「絶対現役」となると、体調不良などの不測の事態を考えれば、1校では少ないでしょう。しかし、そこまで「絶対」でなければ、A1校B1校C3校を全滅する確率が限りなく低いことを考えれば、そこまで心配する必要はないでしょう。

以上のように、レベルを考えて「散らす」ことが、非常に重要です。行きたいところばかり選んでも、最終的に進学できるのは1校ですから、4校も5校も同レベルで選ぶのではなく、偏差値帯を散らしながら、受験校を考えることが重要なのです。

センターと一般

センター利用は非常に厳しい結果に毎年なっています。かりに志願者が減少しても、倍率を維持していることが多く、センターが一般より入りやすくなることはありません。近年、私大の定員厳格化の影響を受けて、合格者の絞り込みが一層厳しくなっています。

上位者＝センター利用に臆せず、早めに合格を確保することで、国立2次の対策をする時間を確保しましょう。

中位者以下＝センター試験で、滑り止めなどと考えず、センターは出願するにしても、一般入試で安全校を作りまし

よう。絶対に一般の方がやさしいのです。

苦手科目のある者＝自分に合うかどうかですが、センターでチャレンジしましょう。理系で数学ⅢC、物理化学Ⅱが苦しいもの→センターはそれぞれⅡB、ⅠAですから、センターの方が合格に近い可能性があります。

マーク模試に強く、記述模試に弱いもの＝当然ですが、センターにチャンスがあります。ただし、中堅以下で河合、駿台模試のような記述はありませんから、一般にもチャンスがあるはずなので、過去問題をしっかり検討しましょう。

センター利用には、事前出願（1月12日以前）と事後出願（15日以降）があります。事後出願でも特にリサーチが返ってくる20日以降に締め切りがある大学はボーダーラインが予想より上がり激戦になります。迷う場合は、事前出願の方が狙えますので、参考にしてください。

文系は、中堅私大でも、ボーダーが80%強と高く、簡単に合格ラインを越えることはできません。例年、本校の平均点は60%程度ですから、いかにこうした点数を「越える」ことが難しいかがわかるでしょう。

それに対して理系は、芝浦工大などのMARCHクラスでも60%台から70%程度で合格がとれることもあり、千葉大などの国公立志望者は狙わない手はありません。もちろん、合格が確保できる保証はありませんから、一般での出願も必須ですが、前述したように数ⅢCなどに弱点があったり、国語などが得意であったりする場合、有利に働くケースも多いので、出願を検討しましょう。

センター利用はあくまでチャレンジ！ただし、理系は積極的に利用を！

個別と全学部

それに対して、個別試験と、全学部試験は、さほどのレベル差はありません。どちらかというと、個別の方が入りやすい印象ですが、データを追うと、全学の方が入りやすいケースもあり、一概に言えません。

一般的に、全学部日程の方が、早いケースが多く、上位者ほど、早い日程で合格を確保したがるので、全学部の方が難化するケースが多いようです。

また、受験生はデータを見て出願することも多く、前年、簡単だった方を選び、結果として難化する、隔年現象が起きやすいので、必ず3年分ぐらいのデータを見ましょう。

調査書の発行に関しては別紙を参照して下さい。(12/1 配布済み)

12月19日までに申し込んだものは1月9日に渡せます。9日以降は原則1週間程度で順次渡せますが、担任ときちんと約束しておかないと、芝柏の中学高校入試などで登校できない場合がありますので、注意しましょう。大学名がわからない段階では調査書は出せません。確定してから申込みましょう。また、急な変更で使わなくなった場合、こちらで違う大学に変更することは可能です。担任に相談して下さい。



今後の予定

- 1月 9日(火) **始業集会(8:45全員登校)** 講習 センターファイナルトレーニング
10日(水) センターファイナルトレーニング
(センターファイナル受験者、芝推、進路決定者は登校、その他は自由登校)
11日(木) **全員登校** 受験者対象集会(8:45 ホール、芝推、進路決定者は自習)
12日(金) 講習(受講者、芝推、進路決定者は登校、その他は自由登校)
13日(土) 14日(日) センター試験
15日(月) センターリサーチ 9:00 カフェテリア登校 12:00 終了予定
講習(受講者のみ登校、その他は自由登校)
16日(火) 講習 **LHR(11:55 全員)**
17日(水) 講習(受講者、芝推、進路決定者は登校、その他は自由登校) 30分授業
18日(木) 19日(金) 高校入試(補助員生徒登校)
20日(土) 講習(受講者、芝推、進路決定者は登校、その他は自由登校) 30分授業
センターリサーチ結果報告受け渡し(時間は後日、担任から連絡)
22日(月) 講習(受講者、芝推、進路決定者は登校、その他は自由登校)
23日(火) 中学入試(補助員生徒登校)
24日(水) ~26日(金) 講習(受講者、芝推、進路決定者は登校、その他は自由登校)
26日(金) 30分授業
27日(土) 中学入試(補助員生徒登校)
29日(月) 講習(受講者、芝推、進路決定者は登校、その他は自由登校)
30日(火) 講習 **LHR(11:55 全員)**
31日(水) 講習(受講者、芝推、進路決定者は登校、その他は自由登校)
2月 1日(木) 講習(受講者、芝推は登校、その他は自由登校)
2日(金) 芝推TOEIC講習(芝推は登校、その他は自由登校)
6日(火) 芝推TOEIC講習 **LHR(11:55 全員)**
9日(金) 芝推TOEIC講習(芝推は登校、その他は自由登校)
13日(火) 芝推TOEIC講習 **LHR(11:55 全員)**
16日(金) 芝推TOEIC講習(芝推は登校、その他は自由登校)
20日(火) 芝推TOEIC講習 **LHR(11:55 全員)**
23日(金) 芝推TOEIC評価テスト(芝推は登校、その他は自由登校)
27日(火) **LHR・3年生を送る会・卒業式予行(8:45 全員)**
3月 2日(金) **卒業式(8:45 全員)**

*全員登校のLHRに合わせて、新柏発バスを増便します。(11:10, 11:15, 11:20, 11:25, 11:30)

*講習の遅刻・欠席の連絡は通常通り。(皆勤、精勤に反映されます)

*上記以外の日も、質問や面談ができるように講師の先生方も含め準備しています。

*試験日・試験前日・発表日の欠席は、公欠として扱います。提出済の「試験受験先一覧」に基づいて対応しますので、当日の朝の学校への連絡は必要ありません。

*「試験受験先一覧」の予定を変更する場合には、必ず事前に担任と相談して下さい。記載のない欠席に関しては、公欠として認定されない場合がありますので、ご承知おき下さい。

*芝柏入試の日程は本日配布のプリントを確認して下さい。

*卒業式のご案内は、後日、別紙にて連絡します。

冬休み自習スペースの開放

冬休み期間、以下の日程で学校の一部を自習スペースとして開放します。学校が落ち着いて学習できるという人は、利用して下さい。ただし冬休み期間中のため、すべての教員が学校内で仕事をしているわけではありませんので、質問などに対応できない場合もあります。なお、下記以外の期間および場所は使えません。

日程 12月23日(土)～27日(水)・1月4日(木)～8日(月) 9時～16時

場所 ホール棟の教室・演習室・高校棟の自習室
(12/27はホール棟の業者清掃予定)

*バスダイヤは本日配布のプリントを確認して下さい



夢実現のための十貝

- 夢を持て。ない夢はかなわぬ。目標なく一生懸命やることに酔うな。
- やることを与えられるな。自分のために創り出し、形にして期限を決めよ。
- 他人と関われ。他人を理解しようとしろ。他人に理解される努力をしろ。
- 挨拶をせよ。人に気付き、人に気付いてもらえる。
- 毎日他人に奉仕しろ。心がきれいなら他人も応援してくれる。
- 話を聞く姿勢を作れ。聞く人には教えたくなる。助けたくなる。
- 書け。何度でも書き直せ。書かないことは考えていないこと。
- 自分と戦え。自分は見ている。人と戦うな。気にするな。自分が変われ。
- 大事なことは最初にやれ。優先順位を考えろ。タイミングを逃すな。
- 成功を繰返し、失敗を繰返さぬよう分析しろ。原因を五回さかのぼれ。